

# 三次元金型の中国進出

## 株式会社黒田製作所



同社の金型で作られた製品（自動車関連部品）

### 優秀な設計・技術開発力

（株）黒田製作所は1975年創業、自動車、OA機器、家電製造用の高精度金型メーカー。プラスチック用精密金型の設計・製造設備のほか、試作・トライまでの一貫設備を有する。

得意分野は自動車部品向け金型で、CAD・CAMの早期導入により「三次元自由局面形状」などのデザイン形状に挑戦してきた。平成5年に小径孔スピーカー成型金型の開発に成功し多くのメーカーに採用されたのを始め、自動車・二輪車用の各種内外装部品用に多くの金型を製作、トヨタ、スズキを始めとする顧客の高い評価を受けている。

### 自動車業界の中国への流れに乗る

中国の自動車生産量は2004年度に507万台とフランスを抜いて世界第四位となったが、日系完成車メーカーの中国戦略も90年代の後半から本格化し始めていた。2001年中国のWTO加盟以降、トヨタやホンダが内製部品やグループ部品メーカー誘致を加速化の中で、部品メーカーにとっても迅速な納品体制やサービス体制の構築とコストダウンによる競争力強化が重要課題となっていた。この流れの中で同社の中国進出計画も急がれることとなった。

### 中国進出は情報整理から

2002年4月、同社黒田隆社長との初めての面談が行われたのは（財）岐阜県経済振興センターにおける中国ビジネス相談会であった。当機構は同センターと提携し、専門家派遣による定期的な相談会を開催していたのである。黒田社長の開口一番のお話は、「中国進出を検討しておりますが、資料が集まれば集まるほど分からなくなります。うす高く積もる資料のどれから読んだら良いのでしょうか？」というものであった。朗らかな語り口に、溢れ飛び交う中国関連情報の中から必要な情報を探し出すことの難しさが率直に吐露されて、多忙な社長さんの悩みが滲み出ている。

アドバイスは情報の整理から始めた。地域情報、関連法制度と運用の地域差、会社設立手順や関連経済データの着眼点と、同社自身で調査・決定すべき事項の整理である。

### 現地アドバイス制度を利用

当機構では実現性の高い優良案件を対象にアドバイザー同行による支援（現地アドバイス制度）を行っている。現地調査によるF/S（フィージビリティ・スタディー＝企業化調査）に協力するもので、企業による応分の費用負担を伴う制度である。

同社には、進出候補地として選んだ天津と大連周辺の現地調査に協力することとなった。トヨタの関連部品メーカーが集積する天津に比べ大連市は自動車産業集積地から遠く、物流面からは必ずしも有利ではない。しかし大量且つ頻りに輸送される部品そのものとは異なり、部品生産設備としての金型製造には技術者や優秀な人材の確保、周辺産業の集積などモノ作り環境も重要である。大連開発区には多くの日系メーカーが集積し、モノ作りの環境も整備され、また大連理工大学は優秀な学生を擁する全国的な大学で、理工系学生にも日本語教育を徹底するなど日系企業にとって有利な環境を備えていた。



同製品（スピーカー）

### モノ作りに適した大連開発区を選択

第一回の現地調査は、天津に3日、大連に2日を割り当てた。天津では開発区5ヶ所と進出企業5社を訪問。大連では経済開発区、保税區、輸出加工区のほか日本企業が集まる日本工業団地と進出企業5社を訪問。各地区の優遇条件、土地代、工場賃賃料、技術者確保の難易度や給与水準等の労働環境、物流事情から現地政府の対応状況、日常生活環境等広範な情報を得た。この第一回調査の結果、モノ作り環境の良い大連を選び、進出を前提とした詳細な調査準備を開始した。たまたま同年春先に中国北部で発生した黄砂が度々天津を襲ったこともあり、精密加工を要する金型生産には大連が相応しいとの判断も加わった。

第二回は同年11月に2日間の日程で行った。調査対象も工場用地の選定、土地代・工場建設コスト、工場賃賃料の場合とのコスト比較、工場建設認可取得手続、建設工事業者の選定等に絞り込むこととした。幸い金型産業誘致に熱心な大連市開発区より土地代等で優遇条件も提示され、最終的に日本工業団地内に残された最後の一区画を好条件で取得することができた。



開業式の様子



現地工場

### 専門員の視点

自動車産業が北の長春から南の広州や海南島まで広範囲に分布・集積している中国で、進出場所の選定は大変である。多くのデータを比較検討し、最終的には経営者の鋭敏な嗅覚で選ぶことになる。

同社の技術力や実績、業界での地位は確かであり、中国進出のタイミングも良かった。何よりも社長さんの朗らかな語り口にやる気を感じられ、検討の糸口さえ掴めれば後はスムーズに進むように思われた。必要なことは、先ず社長さんご自身に中国の土地勘を付けて戴くことだった。中国を実際に訪れ、日本との相違や地域間の相違を測る比較の物差しを作ることである。換言すれば、どんな情報も物差しが無ければ判断が出来ない。二度の現地調査は黒田社長の物差し作りへの協力であったとも言えるだろう。

### 株式会社黒田製作所

(日本本社)	
所在地	: 岐阜県羽島郡岐南町
代表者名	: 黒田隆
業種	: 製造業
事業内容	: 各種プラスチック成形金型設計・製造
商品内容	: 各種精密金型
創業年	: 昭和50年(1975年)
従業員数	: 105名
資本金	: 2400万円
(海外現地法人)	
企業名	: 大連金隆精密模具有限公司
所在国	: 中国
地域	: 大連市経済技術開発区
事業内容	: 精密金型設計・開発・製造
創業年	: 2003年
従業員数	: 28名(中国人25名、日本人3名)
資本金	: US\$710,000
投資形態	: 独資企業
年間売上高	: 2億円強(2006年予想)

現地アドバイス支援はこの第二回調査で終了するが、黒田社長は二度のタイトな現地踏査を通じて中国事情の理解を深められ、後は水を得た魚の如く、2003年の工場完工、技術者の日本研修等を経て、昨年早くも黒字転換したとの朗報が届いたところである。ちなみに、2005年の実績は合計67型で、現地金型メーカー数社との下請体制も整えて、受注拡大を目指している。

(経営支援専門員 野中 義晴)